

石巻宣教支援会 報告

～東北をキリストへ～

2019年5月 VOL. 7

石巻宣教支援会

主の御名を賛美します。

『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』

(詩篇 103:2)

いつも石巻宣教のためにお祈りくださり、御支援頂いておりますことを心から感謝致します。

石巻の山々もいつの間にか新緑から濃い緑色になり、季節は移り進んでいます。

毎週日曜日の朝、復興住宅から20分弱の道を元気に歩いて来られるご婦人がいます。この方Aさんは、仮設住宅での支援活動で親しくなった方で、復興住宅に移られてからもコンサート、クリスマス、イースター、教会開設記念礼拝などには必ず来てくださり、「お茶っこ会」でも常連の一人なのですが、昨年11月末からは毎週礼拝に来られるようになりました。ハレルヤ

先日の日曜日の朝も、リュックを背にニコニコ歩いて来られたAさんに、近所のお花屋さんが「〇〇ちゃん、久しぶりなこと～上がりいん。お茶飲んでって。」と誘ったそうです。実はお二人は幼馴染み。Aさんは「これから教会の礼拝に行くから、お茶はまた今度ね。今週の水曜日には『お茶っこ会』があるよ～」と誘い返したのだそうです。地元の方から地元の方へと福音の種が広がり蒔かれている事を聞いて、私たちは大いに励まされ、神様に感謝しました。

しかし一方で、震災後中止になっていた、地元神社の神輿運行が数年前から復活し、春には教会前の道路を練り歩きます。また女川でも、八年ぶりに子供神輿が奉納され、町中を回る様子がテレビで流れていました。日本の因習が根強く残る地方の町の姿が、ここ渡波にも戻っていると言えます。

震災から九年目となり、再建した自宅や復興住宅でのそれぞれの歩みが進んでいます。落ち着いてはいても、住宅や物の充足では人は満たされることはないからこそ、人とのつながり、地域とのつながりを求めての神輿の出現なのではないでしょうか。消えることのない悲しみを抱えたこの地で、教会が伝えるべきことを大胆にかつ慎重に語らせていただきたいと思います。

7月13日には毎年恒例となったKASのコンサートが計画されています。主が豊かに用いて下さるように、お祈りをお願い致します。

「あなたがたの神、主があなたがたとともに行って、あなたがたのために敵と戦い、あなたがたに勝利を得させてくださるからである。(申命記 20:4)」



【祈りの課題】

1. 主が、まことの神を求める方々を起こして下さり、礼拝につながりますように。
2. 月二回(第一水曜日と第三金曜日)の「お茶っこ会」が用いられますように。
3. 7月13日(土)午後1時30分からの「KASサマーコンサート」が用いられますように。



4月4日に草加福音自由教会と川口福音自由教会のご支援による「第2回 石巻イースターフェスティバル」が開かれました。

今年は、地元紙河北新報だけでなく、朝日新聞にも折り込みチラシを入れていただきました。「お茶っこ会」でもチラシを手渡したのですが、何人かの方から「新聞の中に入っていたのがあから大丈夫」と言われ、イースターフェスティバルの案内と同時に、教会の知名度と信用度アップに用いられていることを感謝しました。

当日は廊下で、自分の好きな色のかごを選び、皆さんそれぞれの席に着きました。このかごは教会の方々の手作りだそうです。背後にある祈りと愛のご奉仕を思い、感謝でした。

高尾先生が、紙芝居を用いてイースターについて語ってくださり、復活の賛美もみんなで歌いました。

そして、いよいよゲームの始まりです。

昨年は会堂に出現した野原に、皆さんビックリの「エッグハント」でしたが、今年もたまごをかごに溢れんばかりに入れて笑顔でした。



これは射的のコーナーです。静かにお客様が来るのを待っています！

しかしこの射的、当たりそうで、なかなか当たりません。何度挑戦しても当たらない方には、スタッフがさりげなく、まるで本人の弾が当たったかのように、狙っている物を後ろから打ち落としてくださっていました。

なんともほほえましく、温かい光景でした。

最後のお楽しみは、チケットについている金券とくじ引き券のコーナーでした。くじ引き券を渡し、引いた番号の景品が貰えます。自分の願った景品の番号が出ず、何度もくじを引いていたお子さんもいました。それでも当たらず、優しいスタッフは、欲しかった景品を渡していました。



金券は券に記されている金額分のお菓子を買います。計算のできない小さなお子さんもいたので、スタッフが計算を手伝ってくれました。どのお子さんも、もちろん大人も満足の笑顔で風船を片手に、もう片方にはかごを持ち、喜んで帰って行かれました。

この日の渡波は強風で、昨年より人数は少なかったのですが、昨年と大きく違ったところは「お茶っこ会」に来ておられる御婦人方がお孫さんを連れて来られたことです。「おばあちゃんが行っている教会」として親しまれつつあるように思います。

仮設住宅での支援活動で知り合ったのは、ご高齢の方々がほとんどでした。私たちは、若い世代、次世代とのつながりを求めて祈って来ましたが、全くの力不足のゆえ、手が伸びないでいました。草加、川口両教会による「石巻イースターフェスティバル」のお働きは、石巻教会初のお子さん向けプログラムであり、新聞折込みのチラシをはじめとする諸準備一切合切を用意してくださり、参加者一人ひとりに親切この上ない対応をしてくださるといふ、至れり尽くせりのものでした。また、遠くから来てくださることも、石巻の方々の慰めになっています。私たちの思いを遥かに超える、「神の指」であります。こころから感謝致します。

「忘れられていない」「愛されている」ことを、伝え続けて参ります。
〔参加者：64名(奉仕者含む)〕



★石巻宣教支援会へのご支援と、お祈りを心から感謝します。